

情勢報告

いよいよナスの現地実証がスタート 目指せ 25 t /10 a 突破！



2条2本仕立て+環境制御技術の組み立て実証ほの様子（8月22日定植）

農業改良普及課が企画・提案する環境制御技術に関わるナスの現地実証が、昨年引き続き安芸市土居のほ場で始まりました。

今作では、昨年取り組んだ炭酸ガス局所施用や白マルチ設置、高めの夜温管理、日射比例かん水等の管理に加え、1条2本仕立てと2条2本仕立てによる収量性を検討します。

今後は、実証ほの収量性や経済性を検証するとともに、各部会の現地検討会でこの実証ハウスを活用して広く周知し、環境制御技術の導入・拡大を呼び掛けます。

環境制御技術を活用した栽培で、増収に向けて第一歩を踏み出しました！



日射比例制御かん水装置の設定方法を学ぶ生産者

中芸地区では12人が平成29園芸年度に環境制御技術普及促進事業で新たに環境制御機器を導入しました。8月中旬からナスの定植が始まって、早速、環境制御技術の実践となりますが、導入した生産者からはまず機器取扱いの指導が望まれています。そこで農業改良普及課はJ Aと協力して、新規導入ハウスを個別巡回し、環境制御装置の設定方法を集中指導しています。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携して新たに機器を導入する生産者に重点指導を行い、農家とともに限界収量突破を目指していきます。

H29 園芸年度は病害を減らそう！ ～中芸病害対策勉強会～



農業技術センター研究員の病害対策の説明を熱心に聞き入る生産者

8月24日、安田町文化センターで、次作に向けた黒枯病やフザリウム立枯病等の病害対策の勉強会が開催され、ナス生産者26人の参加がありました。

農業改良普及課は、黒枯病菌の生態と伝染環などの特徴と防除対策を説明しました。また、農業技術センターから耐性獲得を防ぐように考慮した農薬体系防除や除湿による病害対策を説明しました。参加者からは「防除暦がすごく考えられて作られていることが分かった」「今後の防除に活かしたい」といった意見が出ました。

農業改良普及課は、今後もハウス内環境の改善や定期的な予防散布などの病害低減対策の徹底を周知していきます。

情勢報告

芸西ナス部会が平成 28 園芸年度総会を開催



議事を熱心に聞く生産者

8月29日に芸西ナス部会が芸西集出荷場で通常総会を開催し、生産者29人、関係者10人が参加しました。

農業改良普及課は、今後も高温が続くと予報されていることから定植初期の高温対策として十分なかん水や遮光資材の活用と農薬の適正使用を呼びかけました。

また、芸西ナス部会では、29園芸年度に炭酸ガス発生機が新たに24台導入される予定となっており、さらなる増収への意欲が高まっています。

農業改良普及課はJAと連携し、新たに機器を導入する生産者に対して綿密な指導を行い、環境制御技術の普及に努めます。

土佐あき地域園芸戦略推進会議の開催



地域園芸戦略推進会議の様子

8月26日、JA土佐あき本所において土佐あき地域園芸戦略推進会議が開催され、生産者を含む28人が参加しました。

会議では、まとまりづくりとGAP・販売戦略チームから、年間活動実績と今後の活動方針が発表されました。また、ナスの消費者・市場関係者・生産者・労働力アンケートの結果報告から産地の現状を関係者が共有し、ナスのブランド化や品質向上対策などを盛り込んだ「JA土佐あきナス産地の再構築プラン」に産地全体で取り組んでいくことになりました。

農業改良普及課は、生産者・関係機関と連携し、この会議での決定事項を着実に実践するよう支援します。

硫黄粉剤を使って手軽にうどんこ病を予防！



指導直後に散粉器を購入する生産者

8月22日から9月14日にかけて、農業改良普及課室戸支所は室戸市、東洋町のナス生産者28人を個別巡回し、散粉器（ダスター）を用いた硫黄粉剤散布によるうどんこ病の予防について情報提供しました。

前作から硫黄粉剤を散布している生産者からは「硫黄粉剤は安いし、水と混合せずにそのまま散布できるのが楽なので今作も実践する」との声があり、まだ実践していない生産者も「うどんこ病が手軽に予防できるならやってみる」と関心を高めることができました。

室戸支所は今後、うどんこ病発生状況を調査し、結果を部会や個別巡回で周知しながら、硫黄粉剤散布による予防を普及します。

情勢報告

今年のアスモンヨトウの発生量は？ 卵塊調査を実施



葉裏の卵塊を調査する普及指導員

8月19日、安芸市内で露地サトイモを栽培している3ほ場で、普及指導員がアスモンヨトウの卵塊調査をしました。

この調査は病害虫発生予察調査の一環で、毎年8～9月の2ヶ月間に3回調査をしています。今年は全国的にアスモンヨトウの発生が多く、県内でも中央部・西部では大発生となっていますが、今回の調査の結果、東部では平年並みの発生量でした。

農業改良普及課は、ナス・ピーマンでの病害虫発生予察調査を9月から開始し、病害虫の発生やその対策について生産者に情報提供します。

アスモンヨトウを捕獲しよう大作戦



トラップを設置する芸西小学校児童

9月2日、青年農業士芸西支部が主体となり、芸西小学校の3年生17人と一緒に、今年で12回目となるアスモンヨトウ捕獲トラップを設置しました。

農業改良普及課は、事前学習として、芸西村の農業や捕獲トラップの仕組みについて説明しました。

小学生と青年農業士は自転車で設置場所を巡り、自作の捕獲トラップを設置しました。作業中、小学生はトラップに入れる誘引フェロモンの匂いをかいで「なんにも匂わんねえ」と不思議そうに話していました。

農業改良普及課は今後も青年農業士と連携を取りながら「子供に地域の農業を知ってもらうための活動」を支援します。

今年のアシ刈りはいつ？ ～蔵元と一緒に田んぼを巡回～



蔵元（手前2人）の厳しい目つきが印象的でした

9月7日、安芸市東川地区で東川酒米研究会がアシ刈り時期を決める現地検討会を開催しました。生産者8人、JA4人、農業改良普及課3人に加え、東川産‘吟の夢’を使用して日本酒を製造する3社の蔵元が参加し、総勢18人の検討会となり、アシ刈り時期は9月20日以降を目標とすることが決まりました。

巡回後の会議では「今年は良くできているので期待している」「品評会の結果が楽しみ」といった言葉を蔵元から頂き、「期待に応えるため、最後まで気を抜かず頑張ろう」と声が上がりました。

農業改良普及課は、今年から開催される酒米品評会を告知し、全員の参加を確認しました。今後もJAと連携しながら、酒米品質のレベルアップを支援していきます。

情勢報告

安芸の就農促進に向けて ～安芸地区新規就農交流会～



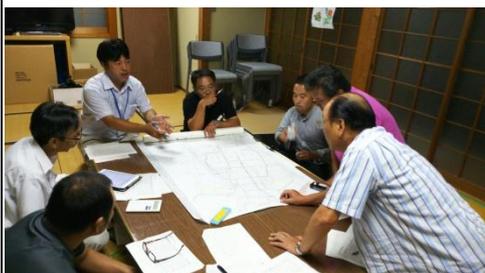
交流会における意見交換の様子

9月16日、農業改良普及課はJ A土佐あき本所大会議室で安芸地区新規就農交流会を開催し、就農希望者12人、新規就農者4人、その他農業者4人、関係機関等23人の計43人が参加しました。

農業改良普及課から管内の新規就農者や研修生の状況を報告し、先輩就農者2人から営農上の課題を克服して経営改善につなげた体験談や生育調査を通してデータを蓄積する重要性などを紹介しました。

交流会のアンケートでは、「記録することの大切さを学んだ」「グループで助け合うことが大事」などの回答があり、この交流会が就農に向けた課題や対策を認識し、参加者同士が交流を深める良い機会になりました。

百石ファーム協業品目の検討会



有望品目を検討中

9月6日、奈半利町の百石集会所で集落営農組織百石ファームが協業品目を検討しました。農業改良普及課は、露地品目数種類の栽培時期や収量、経費等を提案しました。

会では、収量や販売先を加味して、11月からタマネギ（10a）、ニンニク（3a）を栽培し、次年度は水稻とサツマイモ（10a）に取り組むことが決定しました。百石ファームは、地域の水田を守るために野菜づくりに継続して取り組みたいと意気込んでいます。

今後、農業改良普及課は、栽培指導や作業時間の記帳、会計作業が円滑にできるように支援していきます。